

## ●水田三喜男について

水田三喜男は1905年（明治38年）、千葉県安房郡に生まれ、安房中学から水戸高校を経て京都大学法学部に進みました。学生時代は反戦・反軍の学生運動に参加し、新しい社会づくりのために情熱を燃やす若者でした。1946年（昭和21年）には戦後初の衆議院選挙で初当選し、以来30年にわたって議員を務め、通産大臣・大蔵大臣を歴任し、日本の経済復興と成長に尽力したことは高く評価されています。一方、若き日に小学校の教壇に立って以来、「教育」に対する熱意も大きく、「国をつくるためには、優秀で、人間としての魅力にあふれた人材を育てなければならない」と考え、義務教育費や文教施設費の国庫負担や私学助成の事業にも力を注いできました。そして、1965年（昭和40年）4月に城西大学を創立し、その教育に対する夢を実現したのです。



## ●水田三喜男の想い

- ①大学を創設し「国家社会のよりよき形成者としての人材の育成」に貢献する。
- ②教育は永遠です。人作りこそ次の世代の日本を形成する。未来の日本を作る仕事程意味深いものはない。大変かもしれないがやってみたい。
- ③日本の国民は、これから国際社会で尊敬される国民にならなくてはならない。

むずかしい学問はともかくとして、取りあえず、

- ・正直であって嘘を言わないこと
- ・自分のことばかりでなく他人のことも考えること
- ・親を大切にすること

この3つのことだけでも身について国民性とみられるようにでもなったとしたら大したことである。

- ④水田三喜男先生の終生座右の銘 「 偽<sup>いつわ</sup>らず ・ 欺<sup>あざむ</sup>かず ・ 諂<sup>へつら</sup>わず 」

## ●教職員・学生に期待すること（水田三喜男の言葉より）

- ①実社会において、その応用能力を發揮するための思考力と実践力を身につけることを主眼として学生の教育に当たっている。 (「建学の精神」)

- ②智と和を一体とした熱意ある指導のもとに、高き理想をもち、真理と正義にひたむきで、英知と人間愛と勇氣に充ち、精神的推進力を持った現下社会の要求する有用な人材の育成を目指して、特色ある学風を創り、国家社会の発展に寄与したいと念願している。

(「建学の精神」)

- ③人間の形成は完成された環境の力にのみ求め得られるのではなくて、新たな環境を作り出さんとする苦悩と努力の力にこそ求められるものである。

(第1回卒業式告辞、昭和44年)

- ④他人によってつくられ、他人によって与えられた環境であると思うところに、不平と不満は起るものでありますが、自分の手によってこれから新たに創らるべき社会であると観ずるならば、諸君の学びとった経験と自覚は常に諸君を勇氣づけるものとなる。

(第1回卒業式告辞、昭和44年)

- ⑤他校の卒業生に比べて態度が謙虚であること、てらいや威張りがなくて勤労をいとわず、明朗で人に好かれるという好評をすら多く得ております。(第8回卒業式挨拶、昭和51年)

- ⑥開拓者の自覚を持ちつづけられ、これからの自分の環境社会のために、自分自身の御家庭のために、特にこれから何万人にもなろうとする母校の後輩卒業生のために、頑張ってください度いと存じます。

(第8回卒業式挨拶、昭和51年)